

礼拝プログラム

2018年4月8日

司会: 町田兄 奏楽: 西井姉 通訳: 石塚兄

前奏: Prelude

賛美: Hymn

使徒信条: * Apostle's Creed

アナウンスメント: Announcement

牧会祈祷: Pastoral Prayer

感謝献金: Offering

メッセージ: Sermon

「生ける望み」大川道雄師

"A Living Hope" Rev. Michio Okawa

賛美: Hymn

頌栄: Doxology

祝祷: * Benediction

アッシャー: マーシャル姉、ピーターズ姉

グリーター: 本多姉、コーツ姉

ナーサリー: 川久姉、カーター姉

チルドレンチャーチ: 町田姉、ストーン姉

セキュリティ: ウォーカー兄

* 印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のままです。礼拝メッセージは英語に訳されません。必要な機器を会堂入口にてお求めください。

Please feel free to remain seated or sit down when the congregation is asked to stand. The sermon will be translated from Japanese to English. You can pick up a translator device at the entrance of sanctuary.

来週、15日の礼拝

司会: 西井兄 奏楽: ヴォウト姉 通訳: ジャンカー姉

メッセージ: 「アメリカに住むキリスト者として」

賛美: 新聖歌349、LP121

アッシャー: ラッド姉、大野姉

グリーター: リード姉、ホワイトナック姉

ナーサリー: 本多姉、石井姉

チルドレンチャーチ: 川久姉、石塚姉

セキュリティ: 川久兄

おしらせ

本日の礼拝後の予定
コーヒー、バイブルスタディー
カレーランチ、ユース

■本日の礼拝ようこそいらっしゃいました。心より歓迎します。また引き続き、おこしく下さい。

■今日の大川道雄先生の礼拝メッセージ、バイブルスタディーを感謝します。皆さんの上に主の御言葉による祝福がありますように！大倉牧師は現在、休暇中です。今週火曜日の南加牧師会から復帰します。

■今日はカレーランチです。どなたもお楽しみください。また、カレーランチと共に、今年の修養会のために必要なバス費用のためにラブオファリングを募っています。志のある方はご協力いただけましたらさいわいです。八尋ホール入口にボックスがあります。

■今日は宣教献金の日です。これらはマウントオリーブ・ミニストリー、JCFN、サウスベイ教会、ラスベガス教会、ツソン教会、ブレント・キング師、ケブン・ウエスト師、スー・ファミリー、藤間ファミリーのはたらきのために捧げられます。

■フラ・ミニストリーのファンドレイザーとして4月22日にロコモコ弁当を一つ5ドル(提案額)で販売します。サポートをいただける方は本日と来週の日曜日に日語礼拝後と英語部礼拝前にブリーズウェイにて予約を承ります(当日でもだいじょうぶです)。お弁当は22日の礼拝後におわたします。なるべくキャッシュでのお支払いを希望します。

■修養会の申し込みが始まりました。今日、お配りしました申し込み用紙に必要事項を記入して英子姉にお渡しください。締め切りは5月27日(日)で 28日以降は20ドルのレイトフィーがかかり、6月10日(日)以降の申し込みは基本的に受け付けません。ふるって参加しましょう。なチェックの宛先は SDJCCにしてください。

今週の予定

10日(火) 南加牧師会

11日(水) 水曜集会 10:30am-

12日(木) 木曜集会 7:30pm-

13日(金) ななみ会 10am-、恵み会 10:30am-

14日(土) 白百合会 10:30am-

15日(日) 日語執事会

客不恵

信仰とは本来、自分と神様との関係において他者から独立して成り立っているものです。にもかかわらず、なんとしばしば私達は「あの人が、この人が」ということを聞いて、信仰がぐらついてしまうのでしょうか。

信仰をもった当初においては、それもある面では仕方のないことかもしれません。しかし、いつまでもそうであってはならないのではないかと思います。他の人がどんな信仰をもっていようと、どんな言動をしようが、どんな人生を歩んでいようと、それは自分と神様との間柄を遠ざける理由とはならないのです。

ヨシュアの告別説教とも言うべき最後の言葉は、私達に多くのことを考えさせます。戦いに明け暮れて、激しくも厳しくもあったその生涯を閉じるに当たり、イスラエルの長老、かしら、さばき司達を前に、万感の思いをこめ、彼は自らの確信を言葉に託します。

「もしも、主に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、今日選ぶがよい。**私と私の家とは、主に仕える**」ヨシュア24:15

同じ12弟子の一人であったヨハネの行く末を気にしていたペテロに対して、イエス様ははっきりと言いました「たとい、わたしの来る時まで彼が生き残っていることを、わたしが望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか。あなたは、わたしに従ってきなさい」(ヨハネ21章22節)。

己が走るべき道を見失わず、イエス様だけを見上げてその行程を走りぬく。私達がなすべきことは本来、とてもシンプルなことなのです。